

2021年度(2021年4月~2022年3月)の動き

Topics

Topics 1 トリアージ施設を整備

文部科学省の2020年度第3次補正予算「国立大学附属病院多用途型トリアージスペース整備事業費」により、本院「トリアージ施設」が2021年9月30日に完成しました。本施設は高度救命救急センター入口前に設置されており、平常時の備蓄倉庫としても使用できます。

施設内の設備としては、診察室2室がHEPAフィルター付きの陰圧室となり、診察室内には酸素ポンペを接続して利用する酸素配管が設置されています。その他の待合スペースにおいては災害時にパーティションを使用することによりプライバシーを確保することができ、災害発生時用自家発電設備からの電力供給も整備されています。また、屋外には化学薬品などの汚染による災害に対し除染ができるよう、除染用シャワーも備えられています。施設出入口は医療者専用が1カ所、患者用の出入口が4カ所あり、患者の動線を一方にする事で、感染リスクを回避することができます。さらにスロープも設置されているため、車いすやストレッチャーの出入りも可能な構造になっています。



●トリアージ施設 外観

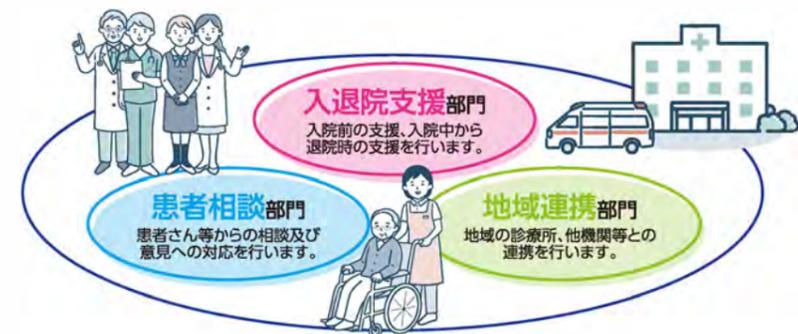


●待合スペース

Topics 2 患者包括サポートセンターの開設

2025年に予定している統合診療棟の運用開始に向けてソフト面より患者サポートを強化するため、これまで地域連携業務や入院支援等を行ってきた『保健医療福祉ネットワーク部』を廃止し、『患者包括サポートセンター』を新設しました(2022年1月1日)。

『患者包括サポートセンター』は「患者相談部門」「地域連携部門」「入院支援部門」の3部門で構成され、医師、看護師、ソーシャルワーカー、臨床心理士、事務職員など多職種で担っています。「患者相談部門」は治療や看護、社会福祉制度などさまざまな困りごとに対応しています。「地域連携部門」は地域の医療機関や福祉施設、自治体と連携する窓口です。「入院支援部門」は従来から行っていた受診予約の受け付け、転院や在宅医療の調整・手配、社会福祉制度の紹介などを引き続き行っていきます。また、病歴、内服薬や生活の状況など患者把握を入院前に行う入院前支援も充実させていく予定です。入院前から退院後まで一貫した支援体制を目指します。



●患者包括サポートセンターの3部門体制



[エントランスホール]



[オープンテラス]



[がん相談支援室]



[正面玄関]



[病棟・診療棟外観]

Osaka University Hospital through Photographs 写真で見る大阪大学医学部附属病院



[特定集中治療室(高機能ICU)]



[血液浄化部]



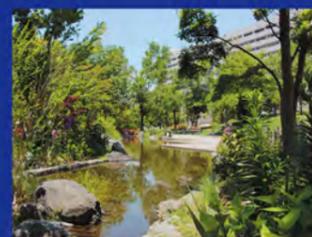
[ドクターヘリ]



[小児医療センター]



[散薬調剤ロボット]



[ホスピタルパーク]



[半導体スペクト/CT装置]



[入院センター]



[手術支援ロボット ダヴィンチ]



[高度救命救急センター 血管造影室]



[オンコロジーセンター棟抗がん剤調製室]



[治療コーナー・臨床研究相談窓口]